

はじめに

東京工業大学では、4年毎の自己評価・外部評価を行うことが義務づけられており、平成22年3月までにその評価を終えることになっていた。しかし、平成21年9月から始まった耐震工事等が3月末まで行われたので、その実施を5月に行うこととなった。

評価対象となる期間は、平成18年4月から平成22年3月までとなっている。この期間においても、平成16年に起こった大学の独立法人化の余波が未だ続き、加えて、大きな経済不況が世界中を覆ったことから、研究環境はさほど改善された方向には行っていない。資源化学研究所もその波を受けながらも、研究・教育の基本的な姿勢を維持し、発展できるような限りの努力を続けてきた。この自己評価・外部評価を通じて、様々な角度から現状の機能・体制を分析し、発展への礎になることを期待している。

このような意図の下に、資源化学研究所に自己評価委員会を設置した。

自己評価委員会 仲 勇治教授 (委員長)
田中正人教授
辰巳 敬教授

この委員会で自己評価の原案を作成し、教授会で承認されたものが第1章である。外部評価委員を、下記の方々をお願いした。

外部評価委員会 徳丸克己先生 (筑波大学名誉教授) (委員長)
大森正之先生 (中央大学教授、東京大学名誉教授)
齋藤太郎先生 (東京大学名誉教授)
清水茂久先生 (富士フイルムテクノプロダクツ(株)社長)
城田靖彦先生 (福井工業大学教授、大阪大学名誉教授)
中江清彦先生 (住友化学(株)専務執行役員)

外部評価委員会は、平成22年5月14日10時より開催し、午前中に研究所の全体事項を、午後に各部門の研究内容等の説明を受けて頂いた。それを基に、評価・助言を第2章としてまとめて頂いた。この助言を真摯に受け止めて研究所の将来への展開方針を示したのが、第3章である。

本報告書は、自ら組織・体制を見直すと同時に、第三者から忌憚のない意見を頂き、それらを将来のあるべき姿を描き姿勢を正す素晴らしい機会であると認識している。

平成22年7月吉日

資源化学研究所 所長 池田 富樹 教授
自己評価委員会 委員長 仲 勇治 教授
田中 正人 教授
辰巳 敬 教授